

# 「かがやいている子」をめざして

自分に自信をもち、めあてや願いをもって挑戦していくことを大切にします。

## 第1回今井っ子育成懇話会 6月20日(土)

土曜授業参観日の午前中に、第1回今井っ子育成懇話会が行われました。

「子どもたちの声がいつも昔を思い出させてくれる。私が子どものころ、この今井町ではホテルが乱舞していた。家の中にも入ってきた。懐かしい。今日も子どもたちが外で元気よく遊んでいる姿を見て、その声を聞いて、世の中は変わっているけれど子どもたちは今も昔も変わっていないと感じる。」という今井町自治会長、高野彦一さんからのお話で懇話会がスタートしました。

学校からは、学校教育目標、中期学校経営方針、学力向上アクションプラン等について説明をした後、ご意見やご感想をいただきました。

「子どもたちの外遊びの頻度が減っている。放課後の遊びの中心はゲーム。公園で集まってもゲームをしている子どもたちが本当に多い。学校が体力向上を打ち出し、子どもたちの体力について考えているから、家庭でもできることは考えていかないといけない」

「同様に、学習でも同じことが言えるのではないか。学んだことの定着を図るためにも、家庭での学習の習慣をついけるためにも、宿題を意図的に出して、学校だけでは定着できない部分を、家庭へも返すべきではないか」といったご意見が寄せられました。

「横浜市学力学習状況調査から学習に対し意欲・関心は高いが、定着が図れていないという結果が出ている。学校は学び方を教え、家庭にも協力を仰ぎながらその課題を解決して行ってほしい。」と今井小学校元校長で今井っ子育成懇話会顧問、中嶋正知さんにまとめていただき、会が終了しました。

いつも温かく見守ってくださる地域や保護者の方々との良い関係を、子どもたちの成長に生かしたいと思います。



# 国際平和スピーチコンテスト

保土ヶ谷区20校が保土ヶ谷公会堂に集まりました。  
今井小学校の代表としてスピーチした原稿を載せました。

「私のお姉ちゃん」  
私の家には障害のあるお姉ちゃんがいます。お姉ちゃんは産まれてすぐに障害をもってしまいました。障害をもって人があるのと何でも譲らなければいけません。例えばトイレやエレベーターなど、自分がやりたくても我慢しなければいけないことがたくさんあります。また、出かけるときに、必ず知らない子どもたちにも、じろじろお姉ちゃんのことを見られます。それは、私にとっですごく嫌なことです。でも、お姉ちゃんのこととは嫌いではありません。お姉ちゃんがじろじろ見られたらどんな気持ちになるか想像できるからです。自分だったら「どうしてこんな体なの」と思い、悲しい気持ちになると思います。お姉ちゃんも心ではそう思っているかもしれません。でも、お姉ちゃんはその態度に出しません。きつと小さい時からそういう事がたくさんあって慣れてしまったのだと思います。ただ、慣れるまでには、たくさん悲しい思いをしてきたと思います。しかし、お姉ちゃんは何があっても毎日楽しそうにしています。ニコニコしてみんなを楽しませてくれます。そして、私がお母さんに怒られているとき、必ずかばってくれます。

以前、お姉ちゃんの学校に何度か行きました。その学校にはいろいろな障害をもって人々がいました。その時、私は障害のない体でいられる事に感謝しなければならぬと感じました。私のお姉ちゃんにはしゃべる事もできないし、歩くこともできないけれど、人が言っている言葉はよくわかっています。自分の事を見られたり悪口を言われたりする事もよくわかっています。また、重い障害をもって人々は長くは生きられないと聞いたことがありますが、そのことを考えると、元気でいる間に、お姉ちゃんがやりたいとおもうことがたくさんできたらいなと思います。もし、今震災がお姉ちゃんのもとに起こったらと考えると、怖いし不安です。だからお姉ちゃんが毎日、楽しく笑って過ごせるように、自分ができることは何でも手助けしてあげたいです。そして、お母さんがやっていることが自分でもできるようにしたいです。障害のある人もない人も仲よくしていける世の中になれば、みんな幸せになると信じています。